

7月



令和8年 7月 1 日
佛教大学附属こども園

「仏教保育 7月のねらい」
ふ せ ほう し
布施奉仕

「もう一回やり直そう！」

ある日の砂場での出来事です。

5歳児の男児Aくんが背中を丸めて黙々と何かに取り組んでいました。A君の前には担任がいて、話しかけています。よく聞くと「そろそろおまじりの時間だよ。帰ろう。」と声をかけていますが、A君は担任の方を向きません。

よく見るとA君は泥団子を手に持っていて、大事そうに撫でていました。A君の泥団子を見る視線から「ピカピカに光らせたい」という強い気持ちを感じました。

私は思わず、「頑張ってるんやな〜。先生も泥団子、作るの好きやで。」と声をかけました。するとA君は「ほんとに？じゃあ、今度一緒に作ろうよ。」とニコツと笑い、担任と一緒に保育室に戻ってしまいました。

そして、後日。

一緒に作り始めると、A君は私のする事を真剣な眼差しでじーっと見ています。

そして「なんで先生はぎゅーって絞るの？」と質問をしてきたので、私はA君に「先生は、壊れない堅い団子を作りたいと思っているの。だから壊れませんようにってぎゅ〜ってしてるの。」と伝えました。

A君は「ふ〜ん…」と言返事をしただけでしたが、A君の団子を握る手に力が入っていることがわかりました。

そしてそこから「なんでまださら粉をかけないの？」「なんですぐにこすらないの？」とA君の「なんで？」が始まりました。私は、A君が正確な答えにたどりつかなくても自ら考えたり、想像力を働かせたりして欲しいと願い「なんでだと思う？」と逆に質問で返してみました。

すると「あ、わかった！大事に作りたいからやな！もうわかったで！」

A君なりに何かに気づいたようでした。

A君の楽しそうに団子を作っている姿に引き寄せられるように友だちが集まってきました。

A君の「ピカピカの団子を作りたい」という思いを知ったB君は、どこのさら粉がいいとか、ふるいを使うともっとさらさらの砂になるなどを伝えながら、一緒に泥団子を作ることを楽しみ始めました。

そんな中、泥団子が割れてしまい、悲しそうな表情をしているB君に気づいたA君。

「大丈夫やで。壊れても何回もできるし！僕、やり方わかったし。もう一回やり直そう！」と自分の団子を壊して一から作り直そうと友だちを励ましていました。



泥団子作りは失敗の方が多い遊びですが、考える力、挑戦する気持ち、探究心、そして同じ目的に向かう友だちを思う気持ちがたくさんつめこまれています。改めて、遊びが<こころのねっこ>を育む大事な営みだと教えてもらいました。

私たち大人も子どもとともに心を動かしながら日々過ごしていきたいですね。

(宇佐美)

